



新落合橋（落合町）

水の思い出 ⑥9

落合橋は、常陸太田市の南側を流れる久慈川に架っている木製の沈下橋です。この橋が架けられた年代や時期を明記した資料はありません。今では木製の橋は珍しく、映画やドラマの撮影によく使われています。落合橋を眺めていると、行きかっただであろう、人々の足音や、荷車の車輪が、木の橋に当たり、ガタゴトと、きしむ音が聞こえて来るような気がします。落合橋が架かる久慈川は、かつては水量も多く、水運の盛んな河川でした。周辺には九州へ警護のために出発した兵士を称える防人の碑があり、梵天山古墳は、力のある豪族が居住していた証です。久慈川に隣接する那珂市額田地区には木工所が十数軒今でも立ち並んでいます。これは奥久慈からイカダを組んで流した材木を陸揚げした名残です。時の流れは、人々や荷物の往来を、この小さい橋から遠ざけていきました。現在、落合橋と、隣接する新落合橋は、時折大勢の人々や撮影機材を積んだトラックがやってきて、ロケ地として、以前とは違うかたちの賑わいを見せています。

（黒羽 文男）

映画・映像特集

常陸太田市は、都心から交通の便が良く撮影に適した場所が多いので、ドラマや映画のロケ地によく選ばれています。NHK朝の連続テレビ小説「花子とアン」「梅ちゃん先生」や、2008年夏には、映画「ディア・ドクター」のロケが2ヶ月間にわたり河内地区を中心に市内各地で撮影が行われ、ロケ中は地域が活気にあふれていました。ロケ地に選ばれ、映像に残ることは、私たちにとって誇りでもあります。

また、写真や映画は、地域の自然や生活をそのままに伝えてくれます。写真が貴重品だった頃の常陸太田の風景や暮らしからも、改めて郷土への思いを確かめる機会となりました。 (黒羽 文男・五十嵐 弘・関根 悦美・武藤 卓)

エキストラ出演者にインタビュー

映画ディア・ドクター（2009年公開）、ランウェイ☆ビート（2011年公開）、パズル（2014年公開）にエキストラで出演され、その時のスタッフや俳優さんと交流がある渡辺彰さんへのインタビューです。



映画ディア・ドクターの時は、台詞はないのですが役者のそばで動くので、ある程度の演技経験ある人がいないかなということで、劇工房橋の会の劇団の私達にお声がかかりました。

俳優さんが地元のエキストラのすぐそばに居て、接する面があったのは面

白かったです。私が控室に最初に入っていったときは鶴瓶さんが先にメイクでいらっしゃっていて、隣りに座らせてもらいました。衣装合わせしますからと言われて、呼ばれて待っていた時は次に入ってきたのが瑛太くんと一緒に着替えるという得がたい(?)経験もしました。

映画を通じてみる俳優さんじゃない素の姿が見られました。香川照之さんは、子ども達に虫を持っていくんだと言って虫取りをしたり、余貴美子さんは、リハーサルの合間やカメラを準備している間、本番直前まで、最後の最後まで、あと何十秒で本番という時までも方言のイントネーションを確認されてこれで大丈夫でしょうか?と、聞いていました。鶴瓶さんは直前まで場をなごませるために結構笑いを取っ

てますが、撮影が始まるとパッと切り替わる人でした。そんな中、中村勘三郎さんは、空気が違いました。撮影の時は、本人が現場入り前からピリピリしていました。スタッフにとっても別世界の人なんですよね。面白かったのが、練習の時には台詞とは全然違うことをアドリブで話すんです。それでいて本番は台詞をスラスラと話すので驚きました。

助監督を務めていた久万真路さんや、俳優の田中隆三さん、三浦景虎さんとは、今でも交流があります。去年の10月に里美で「パズル」という映画でエキストラの動員がかかり、同じ助監督さん、同じ役者さん二人がキャスティングされていて、5年ぶりの常陸太田での再会に、懐かしさと感激でいっぱいでした。

映画「ディア・ドクター」(監督・脚本・原作は西川美和) 2012/12/14 公開

出演は、笑福亭鶴瓶、瑛太、余貴美子、井川遥、香川照之、八千草薫、松重豊、岩松了、笹野高史、中村勘三郎、常陸太田市のエキストラ(延べ約800人)の皆さんほか。

ロケ地は、西河内市民ふれあいセンター、上大門二公民館、市役所里美支所、十国峠、集会所、民家など。

西川美和監督が描いていた、ロケ地イメージは「緑の棚田に囲まれた山村」という原風景。スタッフ達は、各地に飛んで、スケジュールぎりぎりまでロケ地を探していた。常陸太田を舞台にした理由を監督は「風景と人々の美しさからここしかないと思いました」とコメントしている。映像では、田園の緑や夜の闇など村の自然をリアルに写しとるさまざまなテクニックや構図を駆使し、エメラルド色の稲穂がいっせいに風にそよぐシーンや、漆黒の闇のなか主人公が手にしたペンライトが蛍のように輝くシーンなど、忘れたい場面をスクリーンに焼き付けている。



みうら かげとら 三浦 景虎さんにインタビュー

映画ディア・ドクター、パズルに出演された三浦景虎さんへのインタビューです。

■ディアドクターが西川美和監督とは初めての仕事だったのですか？

いえ、森田芳光監督の「黒い家」(1999年公開)が初めてご一緒させて頂いた仕事です。その作品で西川美和さんは助監督をされていましたが、みなさんご存知のように大変きれいな方なので「とてもきれいな助監督さん」だと思ったことを憶えています。その後、「ゆれる」「ディアドクター」に出演させて頂きました。特に数々の賞を受賞した「ディアドクター」に出演させて頂いたことは忘れられない思い出です。

■常陸太田ロケでの思い出は？

同じ場面に出演されていたエキストラの方々とお話して、今でも連絡を取り合う仲になったことが、一番大きな出来事・思い出です。色々な場所へロケに行きました。もちろん他のロケ地でもとても良くし

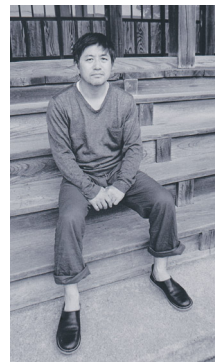
て頂き、良い思い出はたくさんありますが、中でも常陸太田で築いた関係は特別かなと思います。

あの時は出番を終えて翌日帰京することになっていたのですが、同じシーンに出演されたエキストラの方々の打ち上げに誘われて、共演の田中隆三さんと参加させて頂きました。その時の方々とは、今でもお付き合いを続けさせて頂いています。そして、昨年「パズル」の出演依頼を頂きました。ロケ地が常陸太田と聞き、みなさんへ連絡をして撮影終了後お会いする約束をしました。撮影当日に、みなさんも急遽エキストラで出演されると聞き驚いたことを憶えています。終了後は、再び田中さんや常陸太田のみなさんとまた楽しい時間を過ごさせて頂きました。

「ディアドクター」撮影後にも、常陸太田へ一人で伺わせて頂きましたが、今度

は妻と一緒に訪ねたいと思います。

みなさんにお会いすることも楽しみです、おいしいお蕎麦を食べることもとおきの楽しみです。



三浦 景虎

1969年6月生まれ
大分県佐伯市出身

主な出演作品

【映画】「阿修羅のごとく」(2003年公開)「ゆれる」(2005年公開)「ディアドクター」(2009年公開)「花蓮」(2011年公開)「かくや姫の物語(声の出演)」(2013年公開)「パズル」(2014年公開) 他

【テレビ】「Rの法則(NHK)」(2013年放送) 他

くま しんじ 久万 真路さんにインタビュー

映画ディア・ドクター、パズルのチーフ助監督として、常陸太田で2回のロケを行った久万真路さんへのインタビューです。

■なぜ映画の世界へ

子どもの頃から絵を描くのが好きで、将来は美術の世界で食べていきたいと考え、美術コースがある高校へ進学しました。卒業後は美大へ進学するつもりでしたが、先輩が制作する8ミリ映画を手伝ったのがきっかけで、映画を製作する魅力にどっぷりはまり、職業として映画製作を選ぶことを決心しました。その後は、大阪芸術大学映像学科へ進学し、卒業後はテレビの制作会社へ就職し、3年後に現在のフリーになりました。

■西川監督の作品に参加するきっかけは？

西川さんがNHKの番組「いま裸にしたい男たち」(2003年放送)でタレントの宮迫博之さんを撮ることになり、西川さんの殆どの作品に制作担当として参加している白石治さんに誘われ、製作に参加することになりました。その後は、「ゆれる」「ディアドクター」「夢売るふたり」でチーフ助監督を務めさせて頂きました。

■ディアドクターのロケ地に常陸太田が選ばれたのは？

西川監督には、「棚田の中の診療所」という明確なイメージがあり、関東近郊から新潟県までロケハンをおこないました。又、主演の鶴瓶さんがお忙し

い方で「3時間で東京へ行くことが出来るロケ地」という条件がありました。山梨に良さそうなロケ地はあったのですが、決定とまではいっていないところに、「茨城県の北部には良さそうな風景があるよ」という情報が入り、ロケハンを行いました。そして、常陸太田をうろうろしていて、あの風景に出会いました。監督のイメージでは、診療所の屋根は平らな屋根だったので、そこだけがイメージと違いました。しかし、風景はイメージ通りだったので、すぐに決定したことを憶えています。

■常陸太田でのロケは？

市長さんをはじめ市役所の方々、地元の方々にとっても良くしていただき、ありがたかったです。主演の鶴瓶さんのフレンドリーな対応と、地元の方々のホスピタリティー溢れる協力で、本当に良い関係が築けたと思います。

■良いロケ地とは？

必要な風景や街並みがあることはもちろんですが、映画のロケでは急に予定が変わることが日常茶飯事です。「ディアドクター」「パズル」の撮影時には、こちらのわがままをしっかり受け止めて頂きました。こちらのお願いが出来たことが、すべて実現できたわけではありませんが、「なんでも言ってね、

協力するよ」という気持ちが伝わってきました。あの時の温かいご協力は今でも忘れられません。

あの時のホスピタリティーを前面にだせば、東京からの短い移動時間・すばらしい風景・どこか懐かしい街並みがある常陸太田は評判のロケ地になるのではないのでしょうか。

「ディアドクター」「パズル」と常陸太田でロケをさせて頂きましたが、又、常陸太田でロケを行いたいですね。その際には、美味しいお蕎麦をまた食べたいです。

久万 真路

1968年横浜市生まれ。大阪芸術大学映像学科卒業。テレビ制作会社に3年間勤務後フリーに。

主な助監督作品

「レディ・ジョーカー」(2004年公開)「ディアドクター」(2009年公開)「悪人」(2010年公開)「許されざる者」(2013年公開)「パズル」(2014年公開)「マエストロ!」(2015年公開予定) 他

主な監督作品

「ファの豆腐」(2011年公開) 他



常陸太田フィルム・コミッション（常陸太田市商工観光部観光振興課内）

常陸太田フィルム・コミッションでは、常陸太田市の魅力を映像をとおして広く発信することで、より多くの人々に常陸太田市をPRし、まちのイメージアップや市民の地域に対する誇りの醸成、観光客の増加による地域の活性化を目指し、テレビ・映画などの撮影の誘致・支援に取り組んでいます。



フィルム・コミッションについて

茨城県内における映画の撮影などの統一的な相談窓口となり、ロケを積極的に誘致するために、県が平成14年10月に茨城県フィルム・コミッションを設立しました。そして、映像制作会社が集中する東京から近距離にあり、しかも、変化に富んだ自然など様々なシーンの撮影に対応できるロケ適地を数多く有していることが注目され、県内で行われる映画やテレビドラマ等のロケーションが増え、ロケ支援実績は、作品数で連続全国一位になるなどトップクラス。茨城県は、いまや全国有数のロケ地として、そして名作発祥の地として人気を集めています。

常陸太田市では、観光振興課が窓口となり、市内におけるロケに関する相談・紹介、撮影に関する許可・届出手続の協力、宿泊施設・弁当業者等の紹介を行っています。

最近の主な撮影（2013年末現在）

2013年（平成25年）	NHK朝の連続テレビ小説「花子とアン」場所：機初橋下流の河川敷 映画「パズル」場所：旧太田二高里美分校
2012年（平成24年）	映画「だいじょうぶ3組」場所：旧瑞竜小学校
2011年（平成23年）	NHK朝の連続テレビ小説「梅ちゃん先生」場所：八幡橋・機初橋・川原
2010年（平成22年）	映画「ランウェイ・ビート」場所：市内店舗（東一町）
2009年（平成21年）	NHK朝の連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」場所：八幡橋・新落合橋・里川堤防（幡町）
2008年（平成20年）	映画「ディア・ドクター」場所：河内地区、小菅町
2006年（平成18年）	映画「フラガール」場所：八幡橋



①西河内市民ふれあいセンター



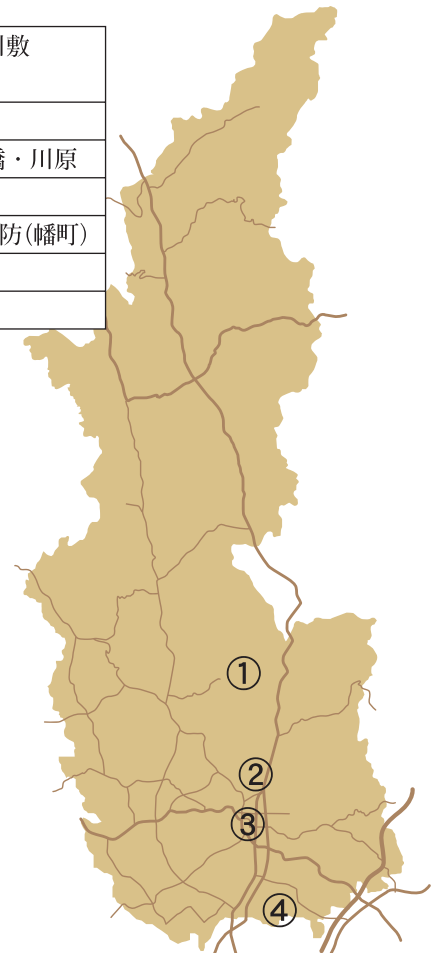
②旧瑞竜小学校



③市内店舗（東一町）



④八幡橋



常陸太田フィルム・コミッションではロケ地やサポーターを募集しています。

日常の風景が映画の舞台へ…映画やドラマの舞台となるのは、観光地だけとは限りません。

たとえば、商店街や喫茶店、工場や病院など、日常のあらゆる風景がロケーションの対象となります。また、ロケ時の食事や休憩場所、機材の手配など、地元の方の協力も不可欠となります。

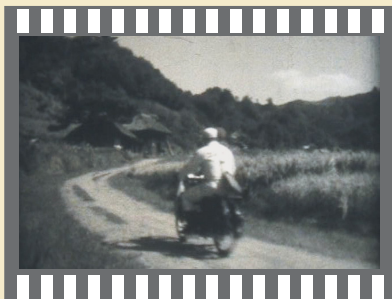
今後のロケ誘致活動を充実させ、多様なロケーションの設定に応えられるよう、市内で撮影に協力・提供できる施設（事業者等）を広く募集し、協力可能な施設等のデータをロケーションライブラリー、サポーターとして公開しています。

映像として残す意味

昭和32年ごろに撮影した8ミリフィルム映像を見る機会がありました。タイトルは、「金砂山とふもとの人々」で、当時の人々の生活ぶりを垣間見る事ができました。麦わら屋根や着物を着た人々、砂利道等から、当時の空気が伝わってきました。人々は、人類が存在し始めた頃から、日ごろの生活ぶりやでき事を壁画として残して来ました。現代の映像も一秒間に30枚もの画像を見せることで、映像として見せています。時代が変わり風景や景観が変わることで、忘れ去られて行く事も多く、映像はそれを残す手段の一つと思います。古き良き8ミリフィルムの映像を見て、今の私たちが目にしている、風景や文化、風習などを、少しでも多く映像として残し、次の時代へ受け継いでゆく事も大切だと感じました。

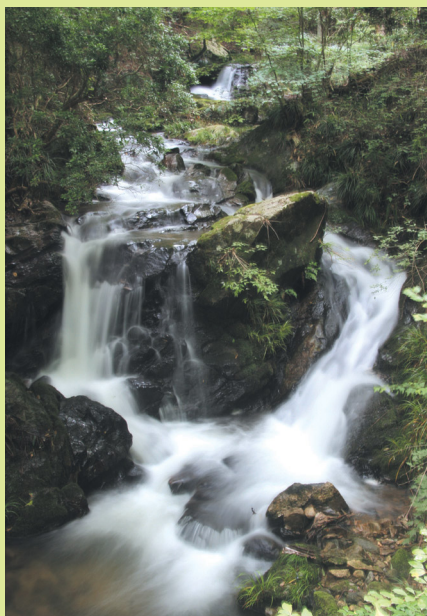
このような映像を見ることで、地域への誇りや想いを深めたり、再確認できるようになるからです。このような映

像等をさらに発掘し、手軽に、提供できるシステムも作って行けたらと感じています。



ふるさと探検隊はじまります!

常陸太田市では、農村環境を身近に感じて頂くため地域の皆様とともに「ふるさと探検隊」を実施します。第一弾は里美地区で開催、その後他の地域でも実施していく計画です。(常陸太田市役所 少子化・人口減少対策課)



写真提供：佐藤善昭さん

ふるさと探検隊
第1弾
7/21

里美の古道
を歩こう!

里美地区小妻町の溪流、薄葉沢沿い塩の草集落から笠石集落に通じる、かつて「塩の道」と呼ばれていた古道を歩きます。薄葉沢の滝・笠石の滝をわきに通りながら、小妻町笠石集落の棚田を目指します。笠石集落に着いたら、地域の皆さんが用意してくれた流しうどんや地元野菜などを頂きながら楽しく交流します。

■問い合わせ先

常陸太田市地域おこし協力隊 * 里美支部
電話 0294-82-2111(内線65番)

原点
6
回起

「人をつなぐ」

小さかった頃、常福地町に住む祖父が大好きで、よく遊びに行き、近くの小川で魚やカニやヤゴを捕まえるのが楽しくてたまりませんでした。夏は裏山でカブトムシを見つ

けたり、ホテルを蚊帳の中に放ってその光りを楽しんだりしました。大学3年生の時に祖父は亡くなり、その後訪れるのは、お墓参りの時だけになりました。

震災後ふるさとに戻り、地元の方たちのWEBサイト作りのお手伝いを始めてしばらく後、ある陶芸家の方がWEBの更新に困っているという話をうかがいました。武藤雄岳さん比呂子さんご夫妻でした。名前は両親から聞いて知っていましたがお会いしたことは無かったので、作品を拝見するのをとても楽しみにしていました。WEBサイトの件について、ご自宅兼アト

リエがある常福地町に出かけたところ、「あの」祖父の家のすぐ近くでした。しかも、雄岳さんのお父さんと祖父は大の仲よしだったとのこと、私のことまでご存知だったと聞き、



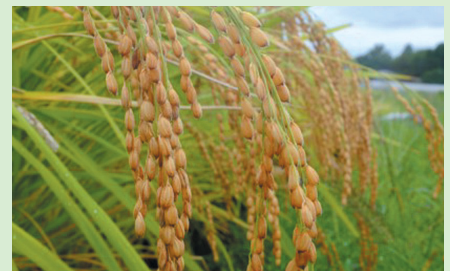
武藤雄岳・比呂子氏

とても驚きでした。祖父の家にあった、学生の頃に描いた絵を見たこともあるということを知り更に驚きました。縁あって、この地、常福地町に帰ってきた、そんな気持ちになりました。自分の様な仕事は、インターネット環境さえ整っていれば、どこでも仕事は可能ではあります。しかし、地元に戻ってこうして仕事をしていると、もともと「縁」のある地域での仕事と、縁もゆかりもない地域でのビジネスでは、何かが違って、その違うものが大事なのではと思わせられる機会となりました。(武藤 卓・千絵子)

人の種
会系米

6

今回ご紹介するのは「日本モチ」と「赤モチ」という稲の種類です。「日本モチ」は、内堀町の故・中沢武夫さん宅で100年以上前から栽培していました。高齢化で栽培が困難になってきたところを、20年ほど前から春友町の武藤一夫氏が種を受け継いで栽培しています。作りにくくてビックリ、収量が少なくてビックリ、食べて美味しくビックリの「大名モチ」と言われています。



赤モチ

「赤モチ」は以前は松栄町全体で栽培されていましたが現在は3軒のみ。一部根強いファンがいるので細々と作っているとのこと。収量は少ないが食味は非常に良く、今でもこの品種でないと食べない方が多くいるそうです。2月に行ったイベントで種を配布しましたが、在来種を育てようという方がふえています。ゆっくりですが、農家個人がつかないできた品種の種が少しずつでも地域の共有財産として育ててゆけばいいと思います。(萩谷 浩司)



日本モチ

ちよつとこい

「ひまわりパン」



楽しみな水曜日。「いらっしゃいませ！」と元気な声でパンの移動販売です。障がい者支援事業所で、メンバーさんがパン作りの先生の指導の下、前日から仕込みをした焼き立てのパンです。私の定番は、くるみ食パンとふんわりしたカスタードクリームコロネです。でも、食べたことのないパンを見るとどれにしようか、迷ってしまいます。季節によってパンが変わったりするのも楽しみですが、売り切れごめんもあります。(相原 早苗)

- 移動販売：常陸太田市総合福祉会館 毎週水曜日10:40～
- 障がい者支援事業所ひまわり 毎週金曜日13:00～14:00
- 茨城県常陸太田市松平町364-1 ●TEL 0294-70-5033

リレーエッセイ 「思い出の絵本」『にんじんばたけのパピプペポ』 ～69～

(天神林町 目黒 真友美)

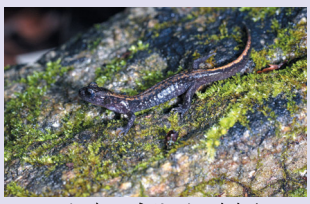
母が、小学校の先生をしている友人から「生徒たちに人気があり面白いのよ」と頂いた本です。20匹の子ブタが、ニンジンを食べるととても良い子になるというお話です。なんととっても子ブタちゃんたちの名前がおもしろいんです。「パパコ、ピピコ、ププコ、ペペコ、ポポコ」などなど。母が早口言葉の様に読んでくれて、それを一生懸命真似したのを覚えています。

子ブタちゃんたちの顔、初めはまったく可愛くないんです。お手伝いはしない、勉強もしない、思いやりもない、困った子ブタちゃんたち…でも、ニンジンを一口食べるとポッと頬が赤くなり、優しい働き者になっていきます。笑顔で作業をして、作ったニンジン分け与えていくのです。その子ブタちゃんたちの可愛いこと！この絵本は、思いやりを示すこと、嘘をつくのは良くないということ、一生懸命働くことの大切さなど、教訓的なメッセージが自然に沢山盛り込まれています。

私が久しぶりに読んで一番感動したのは、最後に子ブタちゃんたちがレンガで建てる、図書館や家のページでした。このページをみた瞬間「こんな図書館行きたいな」「私も海の見えるところに住みたいな」(大人になって見たら海ではなく、空でしたが) そう夢をふくらませた小さい頃の記憶がぶあーっとよみがえってきました。大人が絵本を読むのもいいものですね。懐かしくもあり、新たな発見もあり、温かい気持ちになれました。



ほつとひといき ツクバハコネサンショウウオ



ツクバハコネサンショウウオ
平成25年11月筑波山



ハコネサンショウウオ
平成25年11月常陸太田市里川町

昨年、筑波山のハコネサンショウウオが新種となり、「ツクバハコネサンショウウオ」と名付けられました。関東地方でのサンショウウオの新種発見は82年ぶりだそうです。京都大学の研究チームが遺伝子解析を中心に研究し、科学誌に発表しました。

ハコネサンショウウオは常陸太田市内の山地溪流にも広く生息しています。幼生は溪流の中で、少し探せば見つけることができますが、成体に出会うことはなかなかできません。溪流の近くの落ち葉や石の下を丹念に探す必要があります。

新種とされたツクバハコネサンショウウオとハコネサンショウウオの違いとしては、ツクバハコネサンショウウオは、1.尾が短い 2.幼生は銀白色の斑紋が多い 3.背中側の尾に黄色い線がはっきりある 4.頭部が小さい等がありますが、外見での区別は、専門家でも困難です。

また、遺伝子解析が進めば、太田市内のハコネサンショウウオも新種となる可能性があるとのこと。 (佐々木 泰弘)

常陸太田の地名話 ～15～

がみ 賀美 【常陸太田市賀美地区】

奈良、平安時代の里美地方は多珂郡に属していた。9世紀初めの「和名抄」には、里美地方に「賀美郷」と「道口郷」の二つの郷名がみえる。「賀美」の地名の由来には諸説があり、これと断定することはできない。その中でも有力といわれている潮来の郷土史家宮本元球(茶村)は「常陸国郡郷考」において、「賀美」は上とよみ、「和名抄」には、武蔵国賀美郡が川の上流に那珂郡がその中流に位置している例があるとして、「賀美郷」は川の流域を上・中・下流に分けた時の上流域をさしているとしている。「多珂郡賀美郷」は、その名称や地勢からして里川上流域の大菅、小菅辺りにあたると述べている。

この考えは明治22年(1889)4月の町村制施行の際にも考慮され、大菅、小菅を含む地域は賀美村と決定された。このことから「和名抄」にみえる「賀美郷」は、里川上流域の集落が行政上一つの郷にまとめられてできた郷で、その成立は平安時代初頭までさかのぼることができるとみてよかろう。 (川松 博)

<参考文献> 「新編常陸国誌」「常陸国郡郷考」「茨城県地名大辞典」「里美村史」



平成26年3月で閉校になった旧賀美小学校

新太田点描 7

本草学者・木内玄節

さて今回は、画師宇佐美太奇の項でチョッとふれた木内玄節についてである。玄節は太奇と同郷の太田在小目村の郷医木内春伯の子として明和五年（二七八）に生まれた。諱を政章、字を伯斐と称した。医師としての通称名は玄節である。

天明四年（二七四）六月、十六歳の時、同郷太田の町医者高野昌碩の紹介で水戸藩医 原南陽に入門している。本来ならば、ここで修業・研修を積み「業成れば」、地元に戻って家業を継ぐのが当然であろうが、どうも玄節は病人や患者の診察・治療にあたる臨床医よりは、本草学者として研究医の立場に重きをおいたようである。修業中から本草学研究の道を歩み始めた玄節は、天明年間には漢方薬の原材料となる動・植物や鉱物類の現物を採取するために下野国塩原地方まで採薬旅行している。

ここで本草学について少し説明しておこう。これは古代中国で始まった薬物に関する学問で、「本草」とは薬草をはじめ薬物となる動・植物から鉱物までを調査・研究の対象にしている。日本には奈良時代に伝わったが、江戸時代に最も盛んになり研究が進んだ。当然のことながらその成果は漢方治療薬として日本独自の発展を遂げたものもある。現在の漢方薬学や自然博物学的な学問ともいえよう。

その後、南陽のもとで医師としての修業を終えてからも地元小目村には帰らず、水戸・江戸を活動の拠点としていた。この間、寛政五年（二七九）四月、弟の玄民を自分が紹介者となり藩医南陽のもとへ入門修業させている。

寛政八年（二七九）六、玄節二十八歳の時、江戸本所の東江寺で行われた薬品会に参加し、翌年には同業の医師二人と共に関西地方を旅行し、本草学の大家小野蘭山に入門している。また享和三年（二八〇）三、蘭山が常陸・下野地方へ採薬紀行した時には地理案内を兼ねて同行している。

文化二年（二八〇）五、家伝秘薬の製法書「奇方録」を郡奉行に献呈し、翌年には水戸藩主へ御目通りを許されるようになった。文政二年（二八一）九、玄節五十一歳、常陸鹿嶋方面に採薬行脚を行い、その時に採取した種々の薬草類は色褪せぬうちに、画師宇佐美太奇に「草木形状録」として描かせている。この本は本文と図録で全八冊、文政十年（二八七）に完成し藩庫彰考館に納められたが、先の大戦水戸空襲で焼失している。

文政五年（二八三）三、玄節は水戸藩から五人扶持を支給され、正式に水戸藩士となった。さらに天保元年（二八三）〇、一人扶持加増され、格式進物番次座に昇進し、それから三年後の天保四年（二八三）三に死去している。享年六十五歳。墓は水戸市酒門町の酒門共有墓地にあり、墓誌は水戸藩士で友人の小宮山楓軒が撰文している。

玄節は本草学者、医者として少しく著作物を残している。現在までに確認できたものを次に掲げておく。

- ◎奇方録三巻
- ◎常陸物産志八冊
- ◎草木形状録八冊
- ◎本草綱目記聞十五冊
- ◎方彙遠薬考

ただ残念なのは、地元常陸太田や県内に関係史料や著書類が殆ど残っていないことである。

これでは地元太田での関心が薄いのは当然であろうか。

ちなみに県立笠松運動公園の正面広場に建つ「まごころの像」の製作者木内克

の先祖は玄節一族につながっている。

さて、下の史料は、当時水戸藩地誌「水府志料」を編纂中だった小宮山楓軒が玄節に、方解石の出現地について問いただした質問状と玄節の回答状である。本文内容は省略するが玄節は楓軒に対して誠実・丁寧な対応をしていることが、その署名「木内政章頓首謹言」から読み取れる。

（吉成英文）

